

「 臨床決断のエッセンス

不確実な臨床現場で最善の選択をするために」

今井 裕一 訳

秋田大学医学部 EBM 研究会 協力

名古屋大学大学院助教授 医学推計・判断学

玉 腰 暁 子

EBM (evidence based medicine) 流行の昨今, 医学生, 医師であれば, EBM あるいは臨床疫学という言葉はよく耳にされるであろう。しかし, EBM は論文を批判的に読むことだと誤解したり, 臨床疫学は研究だからふつうの臨床現場では関係がないと思われることも少なくないようである。

医療の現場では, 日々刻々と判断を迫られる。患者が受診する都度, ゆっくり教科書を開き, 論文を検索している余裕はないのが現状であろう。

何らかの症状を訴えて受診した患者に対して必要な究極の判断は, どのような治療が必要か(不必要か)である。その判断を下すために確実に診断をつけたいと考え, 多くの検査がオーダーされる。しかし, そもそも医療現場で確実なことはあまり多く存在しない。人という存在そのものがファジーだとも言えるかもしれないし, 検査をすることで不確実性

がむしろ増すこともあろう。

確実ではなくても患者に対して何らかの判断を迫られるのが臨床である。目の前の患者がある疾患に罹患している可能性はどの程度か, どのような状況下でどのような検査が求められるのか, どのような治療が必要か, 常に意識をしている医師を受診した患者は幸せである。本書はなぜそのような判断が求められるのか, どのようなプロセスで判断にたどりつけばよいのか, わかりやすい言葉, 事例を用いて書かれている。

もちろん当然のことながら, この本を読んだからといって, 目の前の患者がある疾患にかかっている確率はわからない。また必要な検査について述べられているわけでもない。しかし, 多くの臨床の教科書にはそれぞれの疾患の頻度や分布が示されているし, 感染症であれば IT 化の進んだ現在, 流行状況は簡単に調べることができる。また, ある検査の感度, 特異度(→陽性尤度比, 陰性

尤度比)も教科書や論文にあたることで得ることができる。そのような情報に加え, 医師としての経験, 患者の背景などを考慮して, いかに判断を下すのか, その流れを理解し, 臨床現場における決断を助けるツールを身につけるために本書をお勧めしたい。

多くの医師は特に意識することなく, 毎日の臨床においてそのようなプロセスを経ているであろう。それでもあえて本書を読まれることで, 無意識下の作業を意識していただくことは決して無駄にはならないと信じる。また, 用語集は EBM, 臨床疫学について書かれた教科書, 論文を今後新たに読み進む助けになろう。

● A5 頁 152 図 15 表 5 2002
定価(本体 2,200 円+税) 送料実費

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)